

## 韓国語と日本語の敬語助詞 —主体(主語)助詞を中心に—

鄭 貞 美

はじめに

一、日韓の敬語助詞とその付け方

1.1. 日韓の敬語助詞

1.2. 敬語助詞の付け方

二、韓国語の主体と敬語助詞

三、日本語の主体と敬語助詞

おわりに

キーワード: 「-께서-keseo」, 「-には」,  
主体、主語、敬語助詞

はじめに

韓国語と日本語にはともに類似した敬語が発達しているが、ことに助詞に関しては多少の相違が見られる。つまり、韓国語には「敬語助詞」が発達している反面、日本語ではそれほどではないという違いがある。ここで言う「敬語助詞」とは、主体(主語)・与格・所有格に付けて敬う効果を表す助詞であると定義しておきたい<sup>1</sup>。

韓国語と日本語の助詞を対照する観点に立つて考える場合、なぜ日本語には敬語助詞が発達していないのかという疑問も浮かぶが、その未発達の根本的な理由の解明よりも、ここでは韓国語と日本語における敬語助詞を比較し、主体(主語)を中心にどのような状況や談話の中で敬語助詞を用いるのか、両言語における類似点や相違点を追究する。

韓国語における敬語助詞の基本とも言える「-께서-kke」を中心に他の助詞を加えて表

す敬語助詞や、それらに対応する日本語の敬語助詞を比較検討する。この際、日本語の相対敬語や韓国語の絶対敬語の違いを理解することは大前提である<sup>2</sup>。つまり、前者における敬語の使い方は、話者と「聞き手」、またそこで話題となる人物との関係が第1基準である。話者にとって話題の人物が身内であれば、たとえ目上の人であっても、その話題の人物の行いについて敬語は使わずに「聞き手」に話す。一方、後者における話者にとって話題の人が自分より目上かどうかが基準である。

韓国語の敬語助詞に関する先行研究の中で南基心/高永根(1985)、柳亀相(1970)、李翊燮/蔡琬(1999)は、「-께서-kke」が主に主格を表わす助詞であることに焦点を当てている。それに対してコ・チャンス(고창순)(1992)、キム・ヤンジン(김양진)(1999)コ・ソクチュ(고석주)(2001)は、「-께서-kke」は主格助詞ではないとする。ことに、ファン・ファサン(황화상)(2005)は形態素の結合分析に基づいて「-께서-kkeseo」は主格(主語)に関わってはいないが、それよりは「主体」に深く関わる「主体尊待補助詞」と位置付けている。さらに、その主体が尊敬の対象であっても発話の状況から助詞を考える必要があり、尊敬の属性を持つ語彙に結合することも指摘している。

これらの先行研究の中で、ファン・ファサン

<sup>1</sup> 梅田博之(1991:27)は、「-이/가-i/ga」の敬語形は「-께서-kkeseo」であるとし、「敬語助詞」という用

語を用いている。

<sup>2</sup> 梅田博之(1990:95-102)を参照されたい。

(황화상) (2005) は「-께서-kkeseo」が主格を表わすとしながらも主体、つまり発話状況において尊敬の属性を持つ主体の語彙に結合するとしており、これは一定の評価ができる。しかし、主体（主語）の「-께서-kkeseo」だけではなく、諸々の敬語助詞まで視野を広げつつ、その対話場面における「話し手」、「聞き手」、話題上での目上、目下の関係も含めて敬語助詞をより厳密に追究する必要がある。

一方、辻村敏樹 (1991: 348-349) は、日本語における韓国語の「-께-kke」に当たる「-に」という助詞に関して辞書レベルの説明を行っている。つまり、一般的には「-は」/「-も」と述べるはずのところを、その尊ぶべき人物である場合は、「-には」/「-にも」と述べて敬意を表す場合があるとしている。要するに、日本語の敬語助詞はいずれも主体（主語）に限って付けられると言える。

本稿では、韓国語の絶対敬語や日本語の相対敬語の中でも同じ状況のもとで、文法的、語用論的観点に基づいて「-께-kke」や「-に」

の付く敬語助詞の全般を提示しつつ、韓日の主体（主語）の敬語助詞はどのような語と結合するのか、また対話の中でどのように用いられるのか、与格や所有格も含めて対照分析を行う。

## 一、日韓の敬語助詞とその付け方

### 1. 日韓の敬語助詞

韓国語と日本語における敬語助詞、つまり「-께-kke」や「-に」を中心にして派生する様々な敬語助詞を取りあげると、以下の通りである。

この（表1）で見るように、韓国語の敬語助詞は基本となる与格の「-께-kke」に「-서-seo」/「-서는-seoneun」/「-서만-seoman」/「-서만이-seomani」/「-서도-seodo」を加えると、主体（主語）の尊敬助詞になる。そして、「-는-neun」/「-만-man」/「-도-do」を加えると与格、さらに「-서의-seoe」を加えると所有格になる<sup>3</sup>。つまり、その基本軸となる与格の「-께-kke」に様々な助詞が加わって、主体（主語）の敬語助詞である (i) ~ (v)、与格の敬語助詞 (vii) ~ (ix)、

（表1）韓国語と日本語における敬語助詞の比較

	韓国語（普通・敬語）	日本語（普通・敬語）	備考
(i)	-가-ga/이-i · -께서-kkeseo	-は/が	主体（主語）
(ii)	-는-neun/은eun · -께서는-kkeseoneun	-は/が · -には#	
(iii)	-만-man · -께서만-kkeseoman	-だけ	
(iv)	-만이mani · -께서만이-kkeseomani	-だけが	
(v)	-도-do · -께서도-kkeseodo	-も · -にも@	
(vi)	-에게-ege/한테hante · -께-kke	-に	与格
(vii)	-에게는-egeneun/한테는hanteneun · -께는-kkeneun	-には	
(viii)	-에게만-egeman · -께만-kkeman	-にだけ	
(ix)	-에게도-egedo/한테도hanttedo · -께도-kkedo	-にも	
(x)	-의-ui · -께서의-kkeseoe	-の	所有格

（参考）#や@は日本語の敬語助詞である。

<sup>3</sup> 韓国語の「-의-ui/e」・「의ui/i」・「-i」に関する読み方は、4つがある。詳しくは、金泰虎 (2012: 16)

を参照されたい。

そして所有格の敬語助詞 (x) を派生させているのである。

韓国語の与格を代表する「-께서kkeseo」に対応する日本語の与格の助詞は「-に」である<sup>4</sup>。この「-に」をもとに(ii)の「-には」や(v)の「-にも」という敬語助詞を作り出しているが、(表1)でみるように、文中での役割はいずれも主体(主語)の尊敬助詞となる。つまり、韓国語は与格の基本に加えて主格・他の与格・所有格を作っているが、日本語においては基本の与格に他の助詞を加えても、その表すところは主格、ごく一部の与格だけである。

なぜ、韓国語と違って日本語は敬語助詞が主格助詞に留まり、また敬語助詞が日韓ともに目的格までは広がっていないのかの疑問はあるが、現状では分析の糸口が見えないので、本稿では扱わないことにする。しかし、前提として留意しておくべき点は、日韓の敬語助詞を作り出す基本助詞の与格である「-께-kke」や「-に」には根本的な相違があるということである。すなわち、前者はすでに敬語助詞として確立された語であるが、後者は一般助詞なのである。この「-께-kke」に「-서-seo」を加えた「-께서kkeseo」について、ファン・ファサン(황화상)(2005:373)は主格より主体につく補助詞と位置づけて、「主体尊待補助詞」と名付けている。なお、コ・ソクチュ(고석주)(2001:167)もほぼ同じ見解である。いわば、これらの見解における用語に少し相違はあるものの、結局は尊敬助詞という観点であると言える。

(表1)における日本語の敬語助詞の(ii)「-には」・(v)「-にも」は、一般助詞に見える。しかし、これらは文脈の中で主体(主語)に付いて敬語助詞として役割を果たしている。例えば、「-は」の敬語助詞として「-には」、「-におかれましては」を用いることもある。なお、

「-におかせられましたは」は、現代日本語ではまず使わない敬語助詞である。また、「-も」の敬語助詞として「-にも」、「-におかれましても」を用いることもある。ちなみに、この日本語の「-におかれましては」や「-におかせられましたは」を詳しく見ると、前者は与格の助詞「-に」に、「おく」という動詞、そして「-られる」という助動詞、最後に主体助詞「-は」が結合している。一方、後者は与格の「-に」に、「おく」という動詞、そして「-せる」という助動詞の未然形に「-られる」、最後に主体助詞「-は」が結合している。

日本語の助詞「-に」は与格以外に場所格(位置格)の意味合いもある。この場所格(位置格)とは、動作が起こる場所や位置を表すものである、この場所格(位置格)を表す助詞は「-に」で、これに該当する韓国語の助詞は「-에-e」である。敬語助詞が発達している韓国語においても場所格(位置格)に関する敬語助詞は存在しない。

以上のことを踏まえて詳細な考察は、談話における韓日の主体(主語)に限定し、また「話し手」・「聞き手」・主体(主語)との関わりや状況を考慮しつつ行うことにする。韓国語と日本語の対話においては、頻繁に主語が省かれることによって助詞も省略される傾向にあるが、本稿では助詞を考察の範囲に入れて考えていく。

## 2. 敬語助詞の付け方

ファン・ファサン(황화상)(2005:375-376)によると、敬語助詞の「-께서kkeseo」は尊敬の属性を持つ語彙に結合するが、その属性を持つ語彙を調べて取り上げると次の通りであろう。

まず、「-님-nim: -ニム」(様) / 「-さん」付けの単語が上げられる<sup>5</sup>。例えば「할

<sup>4</sup> 益岡隆志・田窪行則(1992:45-46)は、与格や場所格(位

置格)を「二格」として説明している。

아버님 halabeonim」(お祖父様)、「할머님 halmeonim」(お祖母様)、「아버님 abeonim」(お父様)、「어머님 eomeonim」(お母様)、「선생님 seonsaengnim」(先生様)、「사장님 sajangnim」(社長様)、「부장님 bujangnim」(部長様)、「사모님 samonim」(ご夫人様)、「따님 ttanim」(お嬢様)、「손님 sonnim」(お客様) などである。さらに、「-さん」付けは、「할아버지 halabeoji」(お祖父さん)、「할머니 halmeoni」(お祖母さん)、「아버지 abeoji」(お父さん)、「어머니 eomeoni」(お母さん) が代表的な語彙である。

この「-様」/「-さん」付け以外に尊敬の属性を持つ語彙としては、「大統領」、「叔母」、「叔父」、「先輩」、「恩師」、「村長」などが考えられるが、絶対的ではなく、一般的にこれらは「話し手」より目上のような印象が強い語彙である。そして、「-분 -bun」(方) / 「-宅」付けの語彙も尊敬の属性を持っていると言える。例えば、「그분 geubun」(その方)、「일본분 ilbonbun」(日本の方) / 「새댁 saedaeg」(新妻) が考えられる。

ファン・ファサン (황화상) (2005) の、尊敬の属性を持つ語彙に「-께서 -kkeseo」という敬語助詞が付くことに対する見解には一理ある。しかし、尊敬の属性を持つ語彙であっても尊敬助詞を使わない時もある。それは、尊敬の属性を持つ語彙であっても文章や談話の中でものしたり、けなしたりする場合には敬語助詞を使わないということである。逆に、「患者」のように、一般的な名詞であっても敬語助詞を用いる場合もあるのである。

#### <大統領の失政を批判する時>

A (平社員) : 저는 대통령<sup>5</sup>이 퍼온 경제정책은 실정에 가깝다고 생각합니다.  
jeoneun daetonglyeong<sup>[i]</sup> pyeo-on

gyeongjejeongchaeg-eun siljeong-e gakkabdago saenggaghabnida  
(私は大統領が行ってきた経済政策は失政に近いと考えます)

B (部長) : 나도 그렇게 생각해.

nado geuleohge saenggaghae (僕もそう思う)

主体(主語) : 大統領、話し手: 平社員、聞き手: 部長

Aの尊敬の属性を持つ語彙の「大統領」に付けているアンダーラインの助詞「-이 -i」は敬語助詞の「-께서 -kkeseo」のほうが、また共起関係として「떠온 pyeon」(行ってきた)は「떠오신 pyeo-osin」(行っていっちゃった)のほうがより相応しいが、経済政策に関する批判が大統領の面前ではないため非文ではない。しかし、「話し手」が「聞き手」/「主体」の大統領の面前で批判する場合は、「-께서 -kkeseo」の敬語助詞を付け、尊敬共起である「떠오신 pyeosin」というのが一般的であると考えられる。つまり、対面か非対面かといった状況によって、敬語助詞だけではなく共起する用言も多少異なってくる。

#### <入院患者を話題にほめる時>

A (看護師) : 오늘 퇴원하신 환자께서 아주 조용하고 매너가 있는 분이셨어.  
oneul toe-wonhasin  
hwanjakkeseoneun<sup>[i]</sup>aju jo-yonghago maeneoga issneun bun-isyeeoss-eo  
(今日、退院された患者はとても静かでマナーのある方でいっちゃった)

<sup>5</sup> 日韓の「-様」/「-さん」については、金泰虎 (2009) を参照されたい。韓国語の「-님 -nim」は一般的に日本語の「-様」で訳する。しかし、「선생님

seonsaengnim」の場合、「先生様」と訳すれば、違和感を漂わせる。

B(同僚): 그런 환자는 흔하지 않아.

geuleon hwanjaneun heunhaji anh-a  
(そんな患者は稀だわ)

主体(主語): 退院患者、話し手: 看護師、聞き手:  
看護師の同僚

Aの「患者」は尊敬の属性を持たない語彙であるが、対話の中で尊敬の念を抱いている対象のため、「-께서-kkeseoneun」という敬語助詞、そして尊敬用言の「이셨어isyeoss-eo」(でいらっしやった)を用いている。

また他にも、日本語の「あなた」に当たる「当身」は尊敬の属性を持っている反面、けなす意味合いも含まれている。鄭貞美(2012)では、「当身」が敬う気持ちの「敬称」の場合は、敬語助詞を結合させるとしている。

このように、尊敬の属性をもつ語彙に敬語助詞を付ける傾向にはあるが、必ずしも尊敬の属性を持つ語彙だけが敬語助詞を伴うわけではないのである。なお、敬語助詞を付ける場合はこれだけではない。対話の中で「話し手」、「聞き手」との関係、取り上げる内容が目上、目下なのかによって敬語助詞の付け方は異なってくる。そして、敬語助詞の付け方は、必ず発話の中で規則的に守られているというわけではない。

## 二、韓国語の主体と敬語助詞

韓国語の主体(主語)に付ける敬語助詞が用いられる様々な状況を想定して(表1)に照らし合わせて考察する。まず、「話し手」と「聞き手」の話題なのか、主体の「聞き手」が「話し手」より目上なのか、それとも目下なのか、そして主体の話題上の人物が「聞き手」や「話し手」より目上なのか、目下なのかの状況も考慮して分析を行う。

<場面1>「話し手」の弟子は、「聞き手」の先生に会って昔、言われたことについて述べ

ている発話である。

① 선생님께서 저에게 열심히 노력하라고 말씀하셨습니다.

seonsaengnimkkeseo jeo-ege yeolsimhi  
nolyeoghalago malsseumhasyeoss-  
seubnida

(先生は私にがんばりなさいと、おっしゃいました)

\*② 선생님이 저에게 열심히 노력하라고 말씀하셨습니다.

seonsaengnim jeo-ege yeolsimhi  
olyeoghalago malsseumhasyeoss-seubnida  
(先生は私にがんばりなさいと、おっしゃいました)

\*③ 선생께서 저에게 열심히 노력하라고 말씀하셨습니다.

seonsaengkkeseo jeo-ege yeolsimhi  
nolyeoghalago malsseumhasyeoss-  
seubnida  
(先生は私にがんばりなさいと、おっしゃいました)

\*④ 선생이 저에게 열심히 노력하라고 말씀하셨습니다.

seonsaengi jeo-ege yeolsimhi  
nolyeoghalago malsseumhasyeoss-  
seubnida  
(先生は私にがんばりなさいと、おっしゃいました)

主体(主語)・聞き手: 先生、話し手: 弟子(저)

\*印は非文を意味する。

「話し手」と「聞き手」の対面対話において、主体(主語)・「聞き手」の「선생님 seonsaengnim」(先生様)は、「話し手」の弟子より目上である。そこで、①は主語に敬語助詞の「-께서-kkeseo」を付けて、「말씀하셨습니다 malsseumhasyeoss-seubnida」(おっしゃい

ました) という尊敬用言も用いており、もっとも相応しい対話文と言える。③では主体に対して「-께서-kkeseo」を使っているが、韓国語では目上の先生の主体には「-님-nim」(様)付けをする敬語を用いるため自然ではない。②では主体に「-님-nim」(様)を付けても「-께서-kkeseo」を付けておらず、④では主体に「-님-nim」(様)を付けず、さらに敬語助詞も用いていないため、②～④のいずれも非文と言えよう。

＜場面2＞病気で入院していた高齢の患者が若い医者、病気を治してくれたことに対する感謝の言葉を発する場面である。

- ① 선생님께서 제 생명의 은인 이십니다.  
 seonsaengnimkkeseoneun je  
 saengmyeong-ui eun-in isibnida  
 (先生様は私の命の恩人でいらっしゃいます)
- \*② 선생님은 제 생명의 은인이십니다. (先生様は私の命の恩人でいらっしゃいます)  
 seonsaengnimеun je saengmyeong-ui eun-in isibnida  
 seonsaengnimеun jae  
 sangmyeonge eunin nisimnida
- \*③ 선생께서 제 생명의 은인입니다.  
 seonsagkkeseoneun je saengmyeong-ui eun-ibnida (先生は私の命の恩人です)
- \*④ 선생은 제 생명의 은인입니다.  
 seonsaengеun je saengmyeong-ui eun-ibnida (先生は私の命の恩人です)  
 主体(主語)・聞き手: 若い医者、話し手: 高齢の患者

ここでは、「話し手」が高齢の患者で、主体(主語)・「聞き手」は病気を治した若い医者である。力関係から医者が年下であっても①のように敬語助詞や尊敬の用言「-이십니다-isibnida」

を使うのが一般的である。②は敬語助詞は使っていないが、「-님-nim」(様)付けの尊敬主語、そして「-이십니다-isibnida」や「-입니다-ibnida」の尊敬用言が共起しており、若い医者に対してかなり年上の患者であるという状況から鑑みて通用しう対話文であろう。しかし、「話し手」と「聞き手」の力関係ではなく、年齢差を勘案しても③④は不自然である。

＜場面3＞「話し手」の先生は「聞き手」の学生に会って自分が呼んだことについて述べている発話である。

- ① 선생님께서께서 철수를 불렀지.  
 seonsaengnimkkeseo cheolsuleul bulleossji  
 (先生がチョルスを呼んでいた)
- ② 선생님께서이 철수를 불렀지.  
 seonsaengnim cheolsuleul bulleossji  
 (先生がチョルスを呼んでいた)
- \*③ 선생께서께서 철수를 불렀지.  
 seonsaengkkeseo cheolsuleul bulleossji  
 (先生がチョルスを呼んでいた)
- \*④ 선생께서이 철수를 불렀지.  
 seonsaeng cheolsuleul bulleossji  
 (先生がチョルスを呼んでいた)  
 主体(主語)・話し手: 先生、聞き手: 学生(철수: チョルス)

この場面の対話は、韓国語の絶対敬語と相対敬語の中間形態であると言える。つまり、主体(主語)かつ「話し手」の先生が「聞き手」の学生より目上であるため、①のように、自分(主語)に対して「-님-nim」(様)付けの敬語や敬語助詞を使うのは絶対敬語と言える。しかし、用言は敬語を用いないのは相対敬語である。この場合、尊敬用言を用いるとむしろ不自然な文になる。②では主語が「-님-nim」(様)付けの尊敬語彙であっても敬語助詞を用いていないが、非文ではない。しかし、③は「-께서

「-kkeseo」という敬語助詞を使っているのに「-nim」(様) 付けの尊敬語彙を使わないこと、そして④は③と同じ問題に加えて、さらに敬語助詞を用いない点で自然ではない。

<場面4>「話し手」の先輩が「聞き手」の後輩に、先週、集まりの場所に寄ったのかどうかを確かめる発話である。

\*① 지난주 후배님 께서만 여기에 들었어요?

jinanju hubaenimkkeseoman yeogi-e deulleoss-eo-yo

(先週、後輩だけがここに寄ったのですか)

② 지난주 후배께서만 여기에 들었어요?

jinanju hubaekkeseoman yeogi-e deulleoss-eo-yo

(先週、後輩だけがここに寄ったのですか)

③ 지난주 후배님만 여기에 들었어요?

jinanju hubaeniman yeogi-e deulleoss-eo-yo

(先週、後輩だけがここに寄ったのですか)

\*④ 지난주 후배만 여기에 들었어요?

jinanju hubaeman yeogi-e deulleoss-eo-yo

(先週、後輩だけがここに寄ったのですか)

主体(主語)・聞き手: 後輩、話し手: 先輩

この発話文の主体(主語)である「後輩」は、言葉の性質上、尊敬の属性を持たない語彙であるが、①③のように「-nim」(様) 付けをして敬う気持ちを持たせることができる。この場合、後輩に対する先輩の謙遜する気持ちや品格が漂う。しかし、「-nim」(様) 付けがない②の敬語助詞だけでも①③のような効果はあろう。ここで重要なのは、後輩が主体であっても「話し手」が用言としてぞんざいな「들었어요?deulleoss-eo」ではなく「들었어요?deulleoss-eo-yo」という丁寧語を用いているという点である。その意味で①~④は、先輩の後輩に対する丁寧な礼儀正しい気持ちが込めら

れていると言える。いずれの表現もできると考えられるが、①の「-nim」(様) や「-께서-kkeseo」に相応しい共起用言は「들었어요?deulleusyeoss-eo-yo」(寄られましたか) であろう。④は「-nim」(様) 付けがなく、助詞も一般助詞の「-만-man」なので、共起する用言としては「들었어요?deulleoss-eo」が良からう。②③は、「-nim」(様) や「-께서만-kkeseoman」のいずれか一つだけを用いているため、共起用言の「들었어요?deulleoss-eo-yo」に適応していると言える。

<場面5>孫が祖父のことを思い出しながら叔父さんと交わしている会話である。

① 그 당시 할아버님께서도 저에게 많은 말씀을 해주셨습니다

geu-dangsi halabeonimkkeseodo jeo-ege manh-eun malsseum-eul hae jusyeoss-seubnida

(あの当時、おじいさんも 私に多くの話を語ってくださいました)

\*② 그 당시 할아버님도 저에게 많은 말씀을 해주셨습니다.

geu-dangsi halabeonimdo jeo-ege manh-eun malsseum-eul hae jusyeoss-seubnida

(あの当時、おじいさんも 私に多くの話を語ってくださいました)

③ 그 당시 할아버지께서도 저에게 많은 말씀을 해주셨습니다.

geu-dangsi halabeojikkeseodo jeo-ege manh-eun malsseum-eul hae jusyeoss-seubnida

(あの当時、おじいさんも 私に多くの話を語ってくださいました)

\*④ 그 당시 할아버지도 저에게 많은 말씀을 해주셨습니다.

geu-dangsi hal-abeojido jeo-ege manh-eun malsseum-eul hae jusyeoss-se ubnida

(あの当時、おじいさんも 私に多くの話を語って下さいました)

主体(主語):祖父(할아버지halabeoji)、  
与格・話し手:孫(자jeo)、聞き手:叔父さん

この発話では、主体の祖父、「話し手」の孫(자jeo)、「聞き手」の叔父さんという人間の上下関係は明確である。ここで、「할아버님halabonim」(お祖父様)や「할아버지halabeoji」(お祖父さん)は尊敬の属性を持つ名詞であるため、①や③は敬語助詞の「-께서-kkeseodo」(ーも)を付け、用言も尊敬語の「주셨습니까jusyeoss-seubnida」(下さいました)を使用している。

一方、②④は主格に敬語助詞ではない「-도-do」(ーも)を付けているが、一般的に敬語名詞の「할아버님halabeonim」(お祖父様)、「할아버지halabeoji」(お祖父さん)という上位関係が分かる名詞に一般助詞を用いるのは相応しくない。

<場面6>友達同士で喧嘩をしているとき、隣の家のオジサンに叱られたことについて、「話し手」が「聞き手」の友人に明かしている発話である。

- ① 우리가 다른 친구하고 싸우고 있을 때  
옆 집 아저씨께서 나를 호통치셨어.  
uliga daleun chinguhago ssa-ugo iss-eul  
ttae yeop jib ajeossi[kkeseoneun] naleul  
hotongchisyeoss-eo.  
(私たちが友達同士で喧嘩をしているとき、  
隣の家のオジサンは僕をお叱りになった)
- ② 우리가 다른 친구하고 싸우고 있을 때  
옆 집 아저씨~~는~~ 나를 호통치셨어.  
uliga daleun chinguhago ssa-ugo iss-eul  
ttae yeop jib ajeossi[neun] naleul hotong  
chisyeoss-eo.

(私たちが友達同士で喧嘩をしているとき、隣の家のオジサンは僕をお叱りになった)

主体(主語):オジサン(아저씨ajeosi)、  
対格・話し手:僕(나na)、聞き手:話し手の友人

この①隣の家の「아저씨ajeosi」(おじさん)に「-께서-kkeseoneun」の敬語助詞を付けるのは、「話し手」が尊敬の気持ちを込めているからと言えよう。なお「호통치셨어hotongchisysosseo」という尊敬の用言は敬語助詞と適応している。しかし、主体が「話し手」より目上であっても「聞き手」が「話し手」の友人なので、敬語助詞ではない②の「-는-neun」を用いても違和感はない。なお、①②の共起用言として尊敬の「호통치셨어hotongchisysosseo」の代わりに「호통쳤어hotongchyesseo」を用いても非文ではない。

<場面7>人と喧嘩をした弟(「話し手」)が、現場に駆け付けた人々の中で兄だけが自分を叱ったことについて「聞き手」の父に話している発話である。

- \*① 사람들 중에서 형님께서 저를 꾸중했어요.  
(人の中で兄だけが私を叱りました)  
salamdeul jung-eseo hyeongnim[kkeseoman] jeoleul  
kkujunghaess-eo-yo
- ② 사람들 중에서 형님~~만~~ 저를 꾸중했어요.  
(人の中で兄だけが私を叱っていました)  
salamdeul jung-eseo hyeongnim[man] jeoleul  
kkujunghaess-eo-yo
- \*③ 사람들 중에서 형~~께서~~만 저를 꾸중했어요.  
(人の中で兄だけが私を叱りました)  
salamdeul jung-eseo hyeong[kkeseoman] jeoleul  
kkujunghaess-eo-yo
- ④ 사람들 중에서 형~~만~~ 저를 꾸중했어요.  
(人の中で兄だけが私を叱りました)



salamdeul jung-eseo hyeongman jeoleul  
kkujunghaess-eo-yo

主体(主語): 兄、対格・話し手: 弟(저)、  
聞き手: 父

この発話では、主体の兄は弟より目上であるが、「聞き手」が父であるため、①③のように「-께서만-kkeseoman」の敬語助詞を付けるのは相応しくない。韓国語の絶対敬語の「話し手」より目上の人との話題なら「話し手」は「聞き手」に対して敬語を使うという一般的なルールから外れる場面である。つまり、この場面は日本語の相対敬語に近い。しかし、兄というのは「-님-nim」(様)付けが頻繁に行われる語彙であるため、たとえば父の前でも②の「-님-nim」(様)付けは許容範囲と言えよう。

<場面8> 祖父が孫に、(孫の) 叔父が訪ねてきたことを知らせる発話である。

① 삼촌께서 오셨다.

samchonkkeseo-osyeossda  
(叔父さんがいらっしゃった)

② 삼촌이 오셨다.

samchon-osyeossda  
(叔父がいらっしゃった)

③ 삼촌께서 왔다.

samchonkkeseo-wassda  
(叔父さんがきた)

④ 삼촌이 왔다.

samchon-wassda  
(叔父がきた)

主体(主語): 叔父、話し手: 祖父、聞き手: 孫

この①では「話し手」の祖父より主体が目下の叔父であるにも関わらず、祖父は敬語助詞「-께서-kkeseo」や尊敬用言「오셨다-osyeossda」、そして③は「-께서-kkeseo」や用言「왔

다-wassda」を用いている。この①②③の発話文、つまり目上の祖父が目下の叔父がきたことについて述べる言い方は、絶対敬語や相対敬語のいずれにおいても非文であるが、実際に使われている。このような現象に対してイ・ジョンボク(이정복) (2008: 19) は、「聞き手」に目上の人に対するメンツを立てるという心理を教えるような教育的効果を狙っているとしている。ただ、一般的によく耳にする、目上の祖父が目下の叔父に関する事柄について孫に伝える言い方は④である。

<場面9> 話し手が隣家のお爺さんとの会話の中で、先週、そのお爺さんの孫が話し手の家に遊びにきたと言っている発話である。

① 지난주 (할아버지의) 손주께서도 우리집에 들렀습니다.

jinanju (hal-abeoji-ui) sonjukkeseodo  
ulijib-e deulleoss-seubnida

(先週(お祖父さんの)お孫さんも家に寄ってました)

② 지난주 (할아버지의) 손주도 우리집에 들렀습니다.

jinanju (hal-abeoji-ui) sonjudo ulijib-e  
deulleoss-seubnida

(先週(お祖父さんの)孫も家に寄ってました)

主体(主語): 孫、話し手: 隣人、聞き手: お祖父さん

この「손주sonju」(孫)は、「後輩」、「아들adeul」(子供)のように尊敬の属性を持つ語彙ではない。したがって、①主体の「손주sonju」(孫)だけをとりてみると、「-께서도-kkeseodo」の敬語助詞を付けるのは相応しくない。しかし、談話の中で主体の孫はお爺さんと関わっており、孫がお爺さんの地位に基づいて判断されているのである。その関係は示さず、

一般助詞②「-도-do」を用いても不自然ではない。

<場面10>「話し手」の校長先生が金先生に対して誰が学校に出勤していたのかを確かめる発話である。

- ① 지난주 일요일 김선생님께서만이 학교에 들렀지요?

jinanju il-yo-il

gimseonsaengnimkkeseoman-i haggyo-e deulleossji-yo

(先週の日曜日、金先生だけが 学校へ寄られたでしょう)

- ② 지난주 일요일 김선생께서만이 학교에 들렀지요?

jinanju il-yo-il gimseonsaengkkeseoman-i haggyo-e deulleossji-yo

(先週の日曜日、金先生だけが 学校へ寄られたでしょう)

- ③ 지난주 일요일 김선생님만이 학교에 들렀지요?

jinanju il-yo-il gimseonsaengnimman-i haggyo-e deulleossji-yo

(先週の日曜日、金先生だけが 学校へ寄られたでしょう)

- ④ 지난주 일요일 김선생만이 학교에 들렀지요?

jinanju il-yo-il gimseonsaengman-i haggyo-e deulleossji-yo

(先週の日曜日、金先生だけが 学校へ寄られたでしょう)

主体・聞き手：金先生、話し手：校長

この場面の言い方では、韓国における教師社会の独特な文化も混ざっていると言える。つまり、一般的に教師同士は「-님-nim」(様)付けでもって「선생님seonsaengnim」(先生様)と言われるが、校長先生のような目上の先生が

目下の先生を呼ぶ時は「-님-nim」(様)を省くこともある。

①②のように主体(主語)助詞「-께서만이-kkeseomani」を用いるのが一番丁寧な言い方であるが、共起する用言まで合わせると、「들르셨지요? deulleusyeossji-yo」を用いたほうがいい。しかし、この場面では③④の一般助詞も許容され、そして共起用言として「들렀지요? deulleossji-yo」も言える。

なお、「-께서만이-kkeseomani」は、「-께서만-kkeseoman」に「-이-i」を加えることによって「-だけ」を、さらに強調するニュアンスを出している。

以上、一般的に韓国語においては尊敬の属性をもつ主体(主語)の名詞に敬語助詞を付けるが、これだけが敬語助詞を付ける絶対条件ではない。基本的に対話の中で主体・「聞き手」が「話し手」より目上、そして主体(話題の人物)が「話し手」や「聞き手」より目上の場合、敬語助詞を用いる。しかし、談話の状況によっては主体に敬語助詞を使わなければいけないところに一般助詞が使われることもあり、逆に、一般的には敬語助詞を使わない場合にもあえて用いるケースもある。

要するに、談話の中で主格に対していかなる姿勢で臨むのが敬語助詞を使うか使わないかの基本になると言えよう。概ね主格・「聞き手」が「話し手」より著しく目上の場合は、例外なく敬語助詞を使う傾向があると言える。実際の言語運用上では敬語助詞の使い方が乱れていることも多いが、韓国社会では広く使われているのである。

### 三、日本語の主体と敬語助詞

日本語で敬意の対象になる主体に敬語助詞を付けることは韓国語と同様であるが、同じく「話し手」や「聞き手」の関係、そして話者と話題との関わりによって、助詞の付け方にはどのよ

うな特徴があるのかを分析していくことにする。

(表1)で確認してきたように、日本語には敬語助詞があまり発達せず、その使用はほとんど主体(主語)に留まっているが、与格にも用いる。特に現代語では、限られた場面や条件において稀に用いる傾向にあると考える。

＜場面一＞天皇が被災地のある家を訪問したことに關して、「話し手」の市民が「聞き手」の他の市民に話す場面である。

① 天皇陛下には避難所をご訪問されました。

② 天皇陛下は避難所をご訪問されました。

\*③ 天皇陛下におかれましては避難所をご訪問されました。

\*④ 天皇陛下におかせられましたは避難所をご訪問されました。

主体(主語):天皇、話し手:ある市民、聞き手:ある市民の父

①は主体(主語)である天皇に「-には」を付けているが、(表1)の(ii)に当たる敬語助詞である。①の敬語助詞「-には」は、現代語では一般的に②のように一般助詞「-は」付けで表されることのほうが多い。注意したい点は、①の「-には」は(vii)の「-には」とは異なるということである。つまり、形は同じであっても(vii)の「-には」は与格であるが、①の「-には」は主格を表している。

①②はいずれも天皇陛下が臨場しておらず、基本的に対面しない場面が自然であろう。すなわち、「-には」は対面よりは非対面、そして文章に使う傾向が強い。現在、①は主体としてあまり用いない傾向にあるため非文のような感じもあると考えられるが、主体の敬語助詞として用いられる。同じ主格の代わりに使われる敬語助詞であっても、③もそれほどは用いない傾向と言える。しかし、「-におかれましては」は④程ではないが、生活の中で用いることもあ

る。また、「-におかれましては」について詳細にみれば、助詞「に」に「おく」という動詞、そして尊敬の助動詞「られる」、さらに丁寧語の「ます」を複合的に加えたものであり、これをもって敬語助詞と言えるのかどうか、はっきりとした位置づけは難しい面もある。実際のところ、使用場面がかなり限定された「慣用句」と言ったほうがよいかもしれない。

さらに、④の「-におかせられましたは」は現在ほとんど用いられておらず、古い言い方なので耳にする機会すらほとんどないと考える。

＜場面二＞ある集まりで司会者が聴衆に最初の挨拶として話した談話である。

①(司会者)皆様にはますますお健やかに過ごしのことと存じます。

\*②(司会者)皆様においてはますますお健やかに過ごしのことと存じます。

③(司会者)皆様におかれましてはますますお健やかに過ごしのことと存じます。

\*④(司会者)皆様におかせられましたはますますお健やかに過ごしのことと存じます。

主体(主語)・「聞き手」:傍聴者(皆様)、話し手:司会者

この①の敬語助詞は、対面しない場面において用いるのが自然のようである。しかし、たとえ対面であってもこの場面のように少し物理的距離を保った状況では違和感はない。③は敬語助詞として使われるが、②はあまり用いず、また④も敬語助詞ではあるが、大きな身分の差があった時代とは違い、現代ではここまで仰々しい言葉はまず使わない。

＜場面三＞弟子が先生に書いた手紙の文章である。

① 先生にはますますお健やかに過ごしの

御事と存じます<sup>6</sup>。

\*② 先生はますますお健やかにお過ごしの御事と存じます。

③ 先生におかれましてはますますお健やかにお過ごしの御事と存じます。

④ 先生におかせられましたはますますお健やかにお過ごしの御事と存じます。

与格・読み手：先生、主語・書き手：弟子

これらは手紙の文章なので対面ではない。①

③は敬語助詞「-には」や「-におかれましては」と、「お健やかにお過ごし

＜場面四＞母と娘が家族旅行に行く決めて、そのことに関して「話し手」の娘が同席していなかった父に説明すると「聞き手」の母に言う発話である。

① 父さんには私が説明します。

② お父さんに私が説明します。

③ お父さんにつきましては私が説明します。

主体・話し手：娘、聞き手：母、与格：父

この①の「-には」は形としては（表1）の（ii）と同じであるが、文章から見ると（vii）の与格に当たる一般助詞である。①が与格であることを明確にするのは、②与格の「-に」である。③「-につきましては」は与格の敬語助詞であるが、日本語が相対敬語であっても身内同士であるため、目上の父に敬語助詞を使うのである。しかし、非文ではないが、身内同士の話としては丁寧過ぎて他人行儀であり、日本人には違和感のある言い回しであると考えられる。

＜場面五＞息子が商社に就職し、娘も難関大学に入学したことに関して、父の友人が父に祝いの手紙を書いて、娘にも誠にめでたい意志を伝える手紙の文章である。

① 商事に御就職の由、また御令嬢様にも難関大学に御入学の由、衷心からお慶び申し上げます<sup>7</sup>。

② 商事に御就職の由、また御令嬢様には難関大学に御入学の由、衷心からお慶び申し上げます。

③ 商事に御就職の由、また御令嬢様は難関大学に御入学の由、衷心からお慶び申し上げます。

主体：令嬢、書き手：父の友人、読み手：父

この①の「-にも」も「-には」と同様、主体（主語）に付く助詞「-も」に「-に」を付けて敬意を表す場合がある。ここで主体の「御令嬢様」における「令嬢」という語彙だけでも尊敬の意を表している。しかし、これに尊敬の接頭辞「御」、さらに尊敬の接尾辞「様」まで付けているので三重の敬意を表すことになる。したがって、助詞も一般助詞ではない①②を用いるのは最もなことであろう。なお、主体（主語）が令嬢ではなく、皇后陛下の場合、「皇后陛下も・・・」と述べる代わり「皇后陛下にも・・・」と述べる<sup>8</sup>。この敬語助詞の「-にも」も非対面、ないしは多少の物理的距離を伴う際の談話や文章で用いられると考える。

検討してきたように（表1）の（v）の「-にも」も敬語助詞であるが、なぜ②には「-にも」を用いるのか。それは商社に就職したことに続いて令嬢の入学を祝っている、つまり二つ目の事柄なので後者の主体は「-には」ではなく「-にも」が相応しいためと考えられる。そこで②

<sup>6</sup> 辻村敏樹（1991：349）から引用

<sup>7</sup> 辻村敏樹（1991：349）から引用

<sup>8</sup> 辻村敏樹（1991：349）から引用

のように商事への就職と難関大学への入学を別々に見なせば、敬語助詞の「-には」、また一般助詞を使うなら③の「-は」も可能となる。

＜場面六＞父の友人（「話し手」）が「聞き手」の娘の父に挨拶している発話である。

① 令嬢にもよろしくお伝えください。

② 令嬢によろしくお伝えください。

話し手:父の友人、聞き手:父、与格:娘（令嬢）

この①の「-にも」は、形は（表1）の（v）と同じであるが、（ix）の与格の一般助詞である。②も同じ与格であるが、①の場合は他の事柄を述べた後で令嬢のことを取り上げている。しかし、②は令嬢のことだけを取り上げている場合である。

このように、日本語における主体（主語）の敬語助詞は韓国語ほど多くはないが、存在しているのは明らかである。その用途も韓国語ほど広くないが、敬語助詞は非対面や多少の物理的距離が保たれる間で用いられている傾向が強い。

## おわりに

以上、韓国語と日本語における敬語助詞に関する類似点とともに相違点を確認することができた。これは助詞の研究につながる大きな成果を得たと考える。具体的には、以下の内容が浮き彫りになった。

韓国語と日本語の敬語助詞は、（表1）で見ると、韓国語は「-께-kke」、日本語は「-に」に他の助詞を加える。しかし、韓国語の「-께-kke」は与格の敬語助詞であるが、日本語の「-に」は一般助詞である。日本語の「-に」は与格以外に場所格（位置格）に使われることもある。これに対応する韓国語の助詞は「-에-e」である。韓国語や日本語の（位置格）に関する敬語助詞は存在しない。また、韓国語の敬語助詞は主体（主語）・与格・所有格に亘っ

ているが、一方日本語は主に主体・与格に留まっている。

そして、韓国語は尊敬の属性を持つ主体や談話における状況、つまり「話し手」と「聞き手」の上下関係及び話題の人物によって、様々にその敬語助詞の使い方が決まる。一方、日本語は手紙など、非対面の場面や多少の物理的距離感のある場合に使われる。また敬語助詞は、韓国語は文語体・口語体、日本語は文語体に用いられる傾向があるとも言えよう。

しかし、これらの敬語助詞は、敬語の使用基準が崩れていっている傾向の中、その使い方が正確さを欠いていることも事実である。また、韓国語と日本語に共通した言語的特徴から、対面対話における助詞は省かれる習性较强的ため、敬語助詞は口語体より文語体に強く残る傾向をたどっていると言える。

今後は、このような傾向に関して社会言語学的な観点から研究を重ねるのも望ましいことだと考える。

## 参考文献

### 【日本語】

梅田博之（1991）『スタンダードハングル講座2』、大修館書店

金泰虎（2009）「日韓の家庭における対面呼称と接尾辞—家族構成員の関係からみる接尾辞の付け方と敬語の機能」『言語と文化』13号、甲南大学国際言語文化センター

金泰虎（2012）『韓国理解への鍵』、白帝社

小泉保（2007）『日本語の格と文型』、大修館出版

鄭貞美（2012）「日韓における人称代名詞・呼称「あなた」と「当身」—等称・下称・敬称を含む多義性の考察—」

『日本語学研究』35号、韓国日本語学会、韓国

辻村敏樹（1991）『敬語の用法』、角川書店

益岡隆志・田窪行則（1992）『改定版基礎日本語文法』、くろしお出版

### 【韓国語】

고석주（2001）「국어조사 의 연구-「-가」와「-를」을 중심으로」연세대 박사학위 논문、한국

코・ソクチュ（2001）「国語助詞の研究-「-ga」と「-leul」を中心に」延世大博士学位論文

고창수 (1992) 「국어의 격이론」 『홍익어문』 10.11, 홍익대, 한국

コ・チャンス (1992) 「国語の格理論」 『弘益語文』 10.11, 弘益대

김양진 (1999) 「의사주격「-에서」의 형태통사론적 연구」 한국언어학회 제123차 월례발표회 발표 요지문, 한국

キム・ヤン진 (1999) 「意思主格「-eseo」의 形態通事論的研究」 韓國語学会第123次月例発表会発表要旨文

남기심/고영근 (1985) 『표준국어 문법론』 탑출판사, 한국

南基心/高永根 (1985) 『標準国語文法論』 塔出版社

梅田博之 (1990) 「경어에 관한 한일 대조 연구—절대경어와 상대경어」 『일본학지』 10, 일본연구학회, 한국

梅田博之 (1990) 「敬語に関する韓日対照研究—絶対敬語と相對敬語」 『日本学誌』 10, 日本研

究学会

이익섭/최완 (1999) 『국어 문법론 강의』 학연사, 한국

李翊燮/チェ・ワン (1999) 『国語文法論講義』 学研社

이정복 (2008) 「한국어 경어법」 『힘과 거리의 미학』 소통, 한국

イ・ジョンボク (2008) 「韓国語敬語法」 『力と距離の美学』 ソトン

유구상 (1970) 「主格「께서」攷」 『새 국어교육』 14.15호, 한국교육학회, 한국

柳龜相 (1970) 「主格「kkeseo」攷」 『新国語教育』 14.15号, 韓國教育学会

황화상 (2005) 「「-께서」의 문법 범주와 형태소 결합관계」 『사람어문연구』 15권, 사람어문학회, 한국

ファン・ファサン (2005) 「「-kkeseo」の文法範疇と形態素の結合關係」 『士林語文研究』 15卷, 士林語文学会